

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月28日

【評価実施概要】

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 事業所番号 | 3671500852 |
| 法人名 | 社会福祉法人 高越会 |
| 事業所名 | グループホーム上板 |
| 所在地 | 徳島県板野郡上板町神宅字堂床27 (電話)088-694-7171 |
| 評価機関名 | 社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 |
| 訪問調査日 | 平成19年 9月 14日 |

【情報提供票より】(平成19年 8月25日事業所記入)

(1)組織概要

| | | | |
|-------|-------------|-----------------------|------|
| 開設年月日 | 平成18年 3月 1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 8 人 | 常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 | 2, 6 |

(2)建物概要

| | | | |
|------|--------|-------|-------|
| 建物構造 | 木造り | | |
| | 2 階建ての | 1 階 ~ | 2 階部分 |

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|------------------------------|----------|----------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 30,000 円 | その他の経費(月額) | 実費 |
| 敷金 | 有(円) | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| または1日当たり 1,000円 (1月 30,000円) | | | |

(4)利用者の概要(8月25日現在)

| | | | |
|-------|-----------|---------|---------|
| 利用者人数 | 10 名 | 男性 5 名 | 女性 5 名 |
| 要介護1 | 0 名 | 要介護2 | 3 名 |
| 要介護3 | 5 名 | 要介護4 | 2 名 |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 |
| 年齢 | 平均 84.3 歳 | 最低 61 歳 | 最高 95 歳 |

(5)協力医療機関

| | |
|---------|-----------|
| 協力医療機関名 | 中西内科クリニック |
|---------|-----------|

徳島県 グループホーム上板 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木造2階建てであり、入りやすい玄関と落ち着きのある共用空間、透明ガラスの大きな窓には、周囲の景観が一枚の絵のように映り、光や音も適正な配慮となっている。また、職員の表情も穏やかで落ち着きがあり利用者との関係もよく、なごやかな雰囲気の中で生活支援がなされていた。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>殆どの項目で改善がみられたが、感染症に関する予防や早期発見、早期対応ができるよう学習等に努められたい。また、研修に於いても計画的、継続した受講ができるよう取り組まれたい。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員は自己評価・外部評価の意義を十分理解できているとはいいがたく、今回の自己評価は管理者のみで作成されていた。</p> |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では事業所のサービス内容の報告や、参加者からの質問、意見、要望を聞き、情報の収集等が行われている。会議で収集された情報をもとに、地域行事への参加、祭り、イベントへの参加と、地域密着型サービスに向けた取り組みがなされていた。しかし、自己評価、外部評価の結果を報告するまでには至っていない。</p> |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の事業所での暮らしぶりや行事、誕生会等の様子を一人ひとり個別の便りにして、毎月1回家族に送られている。預金出納帳には確認サイン、印により同意が得られている。運営に関する、意見、苦情収集は目安箱や機会をとらえて家族に聞き運営に反映されているが、聞かれた内容の記録がないため、記録・保存して反映されたい。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日々の散歩時の利用者とのゴミ、空き缶拾い、また、地域老人と一緒に散歩をするなど、地域にとけ込んだ日常生活の支援に努められている。地域の自治会や老人会等との連携については、今後、地元自治会への加入、促進に取り組まれたい。</p> |

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|---|--|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 様々な機会を利用し、地域の人々とのふれあいを重視した事業所独自の地域密着型サービスとしての理念が作成されていた。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は玄関や職員室に掲示したり、申し送りノートに記載して、常に理念を共有し、利用者支援の実践に向け取り組まれている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 日々の散歩時に常に袋を携帯し、利用者と一緒にゴミや空き缶拾いを行い、地元住民に声をかけたり、かけられたり、また、地元のお年寄りが散歩に加わってくる等の交流がされている。しかし、自治会等には加入されていない。 | ○ | 自治会の加入や地元老人会、地域活動へ積極的に参加し、グループホームの存在感のアピール、利用者が地域の一員として、行事等への参加交流の促進に取り組まれない。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 管理者、職員は自己評価、外部評価の意義を十分理解できているとは言いがたく、今回の自己評価も管理者のみでの作成となっている。 | ○ | 今後は全職員が自己評価、外部評価を実施する意義を理解し、自己評価に取り組み、評価を活かして具体的改善、支援に取り組まれない。 |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 事業所からのサービス状況の報告や、警察署の方に利用者の方がいなくなった時の対応について話し合っている。また、参加メンバーからの質問、意見、要望等や情報の収集を行いサービスの向上に活かされている。運営推進会議の開催は不定期である。 | ○ | 運営推進会議の開催は不定期であり、今後2ヶ月に1回の開催に合わせて地域、自治会、地元住民の参加も促し、自己評価や外部評価の報告等を行い、課題の検討にも取り組まれない。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|---|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 地域包括支援センターとは運営推進会議以外での交流がなく、町の担当者との連携も取られていない。 | ○ | 今後は、町の担当者と連携を図り、共にサービスの質の向上に取り組まれることが望ましい。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 事業所では利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動、行事や誕生会の様子を一人ひとり個別に便りにして毎月報告されている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議や目安箱等を設置されている。また、機会を捉えて家族の意見、不満、苦情等を聞き運営に反映されているが、記録が残されていない。 | ○ | 管理者、職員共に家族の意見を聞かれているが、具体的な記録物がなく今後、記録を残されたい。 |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員は利用者との馴染みの関係が築かれる前に短期間で幾人かの入れ替わり、離職が繰り返されたが、利用者のダメージを防ぐため他の職員の努力と配慮がなされている。 | ○ | 離職者(自己都合)を最小限に止められるよう取り組んで行かれない。 |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外の研修に少人数ではあるが参加している。また、研修参加者による報告会の資料準備もなされていた。しかし、継続的な研修計画を立てるまでには至っておらず、報告書が作成されていない。 | ○ | 継続的な研修の計画を立て、職員の段階に応じて育成し、全職員が研修内容を共有できるよう報告書の作成と、報告会の実施に取り組まれたい。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 事業所は地域の同業者との交流の機会が持たれていない。 | ○ | 地域事業所との交流を図り、サービスの質の向上に取り組まれたい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 本人、家族と相談し、まずはホームの見学、家族と一緒にの体験利用、職員との馴染みの関係や雰囲気徐々に馴染みながら、本格的な利用に移れるよう支援されている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者と共に和やかな生活が送れるよう場面作りや声かけに配慮し、人生の大先輩である利用者の体験や知識を学び活かしていける関係が築かれている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの利用者の希望や意向の把握に努めている。把握が困難な場合でも行動や表情等を重視し本人本位に検討されている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人、家族、必要な関係者、職員で話し合い、気付きや意見、要望が反映し、地域資源や行事等も盛り込まれた介護計画が作成されていた。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 毎月1回程度のカンファレンスや介護計画の期間に応じた見直しと家族の意向、状態の変化に即した柔軟な見直しがされている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|---|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人、家族の状況、要望に応じて、通院や送迎等必要な支援を柔軟に対応している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族等の希望を大切に、納得を得ているかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援されている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化や終末期(現在、早急に対応を要する方はいない)のあり方について資料作りは進められているが、話し合いを行うまでには至っていない。 | ○ | 重度化、終末期の対応等について、本人、家族、かかりつけ医と十分話し合い、意見等の統一を図り、利用者、家族が安心してサービス利用ができるよう取り組まれない。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう全職員が言葉かけ等に配慮し、個人情報の保護、秘密保持の徹底が図られている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのその日の希望を重視しながら、本来持っているペース等に合わせ柔軟な支援がされていた。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食材の調達や洗い、切る、台ふき、後片付けなど、職員と一緒にいながら利用者の個々の力を活かしている。また、同じ食事を同じテーブルで食べながら支援し、楽しく会話しながら笑顔で会食されていた。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 利用者の希望に応じていつでも入浴ができるよう支援されていた。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 喜びと生き甲斐のある日々を過ごせるよう、一人ひとりの持っている力を引き出し、掃除、洗濯物(干し、たたみ、取り込み)床の拭き掃除等に力量を発揮され職員と共に楽しそうに行われていた。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 天候や本人の希望、気分に応じて、日々の散歩や買い物、外食等にでかけている。また、歩行困難者は車や車いすを利用して外出支援されている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 利用者、家族の了解のもと、安全の為に玄関に施錠されている。利用者の希望があればいつでも鍵を開け、外出支援をされている。 | ○ | 運営者及び全ての職員が日中玄関、居室に鍵をかけることの弊害を理解し、鍵をかけないケアの実践に取り組まれない。 |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 災害や火災等を想定した実践的な訓練を職員、利用者、地域民生委員、消防署員、駐在所員の参加の下、実施されている。また、マニュアル、連絡網の整備もなされている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食べる量や栄養バランス、水分量は医師、栄養士の指導の下、食事摂取量、水分量が具体的に記録、保存が明確にされ個々に応じた支援がなされていた。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間には、季節の花を飾り、壁には利用者の家族から届いた絵手紙(手作り)が沢山貼られ、利用者の馴染みの音楽を適音量で流され、一緒に口ずさみながら穏やかに過ごされていた。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に自宅で使われていた家具や鏡台、テレビ等使い慣れたものや好みのものが持ち込まれ、不安や戸惑いもなく安心して過ごせるように本人、家族と相談の下工夫されていた。 | | |